



看護師  
墓田 沙弥

# ディベロップメンタルケアについて

暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
 新生児センター（NICU：新生児集中治療室・GCU：回復治療室）では、37週より早くお生まれになった赤ちゃん（早産児）や2500gより小さくお生まれになった赤ちゃん（低出生体重児）、治療を必要とする赤ちゃんをお預かりしています。  
 今回、私たちの行っている看護の一つであるディベロップメンタルケアについてご紹介したいと思います。

## ・ディベロップメンタルケアとは

早く生まれた赤ちゃんや何らかの病気を抱えて生まれた赤ちゃんに対して、ストレスを与えないように配慮した環境で、赤ちゃんの精神的成長や発達を促すケアのことをいいます。

当院NICUは、早く生まれた赤ちゃん、小さく生まれた赤ちゃん、その他の治療が必要な赤ちゃんたちをお預かりし、赤ちゃんたちが過ごしやすいように、光や音の調整を行ったり、それぞれの赤ちゃんに合わせたポジショニングを行ったりしています。

## ・視覚のケア

視力は胎児期から新生児期、乳児期にかけて大きく発達する感覚です。早く生まれた赤ちゃんでも28週ごろから光を感じ取ることが知られています。NICU入院期間は、光を感じ取ることのできない期間から、明るい・暗いを感じ取ることができるようになり、視覚刺激に反応できるようになるまでの期間になります。

赤ちゃんにもホルモン生成や体温、覚醒レベルなどを調整する24時間の日内リズムがあります。28週ごろから明るい・暗いの刺激を受けることで、24時間の日内リズムが光刺激から影響を受けるようになります。

当院では、NICU内の調光や、保育器カバーを使用し、明暗環境調整を行っています。



保育器

## ・聴覚のケア

聴覚は28～29週に約40dB、42週までに大人と同じ位の13.5dBになります。

言葉や音楽が、赤ちゃんに良い影響を与えるといわれている一方で、NICUにおける赤ちゃんに対しての騒音は、赤ちゃんの成長と発達の妨げになり、聴覚、言語、認知に関わる障害の原因となります。早く生まれた赤ちゃんは聴覚系の神経発達が重要な時期に、静かなお腹の中から外に出てくるので、騒音にとっても敏感になります。

当院では、保育器周辺で大きな音をたてないことや、医療機器のアラームなどの音を小さくしたり、声の大きさを配慮し、騒音によるストレスを与えないようケアを行っています。

## ・味覚のケア

ヒトの味蕾（舌の表面にあるツブツブとしたもの）は7週頃からできはじめ、大部分の味蕾の味孔（味蕾の先）は14～15週頃にできます。赤ちゃんでは軟口蓋（口の天井の骨が無く軟らかい部分）の味蕾がよく発達しているといわれ

ています。

早く生まれた赤ちゃんでは吸う力が弱くうまく吸えないことや、飲み込む力が未熟で一度の飲み込む量が少ないことがあります。また、吸う-飲み込む-呼吸の連携も未熟で、これらの連携がとれるのは修正週数35週前後といわれます。

当院では、赤ちゃんの修正週数や体重に合った哺乳瓶の乳首の選択や、吸う力を補助するために、理学療法士・作業療法士による口腔マッサージなどのリハビリを行っています。

## ・触覚のケア

20週頃には大脳皮質の体性感覚野が発達し、触覚などの感覚情報を受け取ってその情報を脳で処理します。

触覚は、皮膚に触ったものが危険なものであるかどうかを判断するための、生きていく上で大切な感覚機能です。また、快・不快の感覚がお母さんと赤ちゃんの関係に影響を与えることがいわれています。赤ちゃんの頭や背中、手足に優しく触れること（タッチング）で、赤ちゃんの覚醒や行動を活性化させます。また、手で優しく包み込むこと（ホールディング）で、安静を促します。

当院では、まだ保育器の中に赤ちゃんがいる時にご両親にタッチングやホールディングをしていただいています。



ホールディング

## ・運動感覚のケア

お腹の中の赤ちゃんは動くことで、お母さんの子宮の壁や自分の体に触れる触覚と同時に自分が動いている感覚を感じ、自分自身のイメージを作っていくと考えられています。早く生まれた赤ちゃんにおいて、急性期に安静が必要な時には、しっかりと赤ちゃんを包み落ち着させるポジショニングを行い、赤ちゃんの動きや発達に合わせて、徐々に包み込みを緩めて、感覚運動経験を増やせるようなポジショニングに変更していく必要があります。ポジショニングには、赤ちゃんの安静を保つこと、睡眠時間の増加、ストレス軽減、姿勢の改善、神経行動発達などの効果があるといわれています。

当院では、修正週数や体重に合わせてタオルポジショニングを行っています。お腹を下にした寝かせ方や横向きにした寝かせ方や体位に合わせて行っています。また、筋緊張が強い・弱い赤ちゃんに対しては、理学療法士・作業療法士に診ていただき、赤ちゃんに適したポジショニングを行っています。必要に応じてリハビリを行っています。



ポジショニング

今後も光や音の調整、ポジショニングといった環境づくりに努め、新生児センターでお預かりした赤ちゃんたちが健やかに成長発達していけるよう、より良い看護が実践できるよう取り組んでいきます。